

てもいるが、わが国保育界における恩物批判は極めて不徹底・曖昧であつて、関係者の間に恩物批判がなされながら、その関係者自身の遊戯観・玩具観が恩物の枠から脱しきれず、その形骸を引きずっていた。

ところでこのように恩物法にとらえられた固い遊戯観の支配的であつた当時であつて、明治三六年七月号掲載の「幼児の汽車遊び」と題する記事は極めて注目に価する。それは幼稚園で実際に展開された自由遊びの報告であるが、その内容的な豊かさと流動的な発展ぶりは目を奪うものがある。恩物批判が徹底せず狭い遊戯観の支配していた当時において、このような実態が報告されていること極めて興味深く、次の事情を反影している。

すなわち問題は遊戯にのみ限られず、当時の保育界における理論と実際との関係全体を覆うものであるが、わが国の幼児教育理論は一部有識者の海外思想導入の一環としてとり入れられたが、それらの理論が根を下してそこに幼稚園教育の実際が展開されたのではなく、理論は理論として有識者を啓蒙し啓発するにとどまり、実際は極めてわが国流に実情に即して展開されていった。その実際は導入された理論と決して無関係ではなかつたが緊密に結びついていないかつた。わが国の初期幼稚園は、フレイベルの恩物理論にしたがつて保育の営みを始めたとされてい、またそれは確かでもあるが、貧しい創設期の幼稚園は完全な恩物の揃いを持ち得ず、訓練された保育者の数も乏しかった。そのために、恩物理論によるとは云え、わが国の伝統的な遊具や遊び方が幼稚園に入り込み、子どもたちが比較的自由に活動する余地が残されていたのである。幼児の自由活動が、明確な認識のもとに許されていたとみるより、初期幼稚園界の貧しい実情から、対象の生きた活動に保育がひきずられていたのだ

あり、そしてその子どもの営む自由活動の内容的豊かさに、心ある保育者は注目させられその価値を徐々に認めはじめたといつたとみる方が至当であろう。

大正中期に至つて倉橋惣三氏の活躍が誌面に著しくなるにおよび、これら子どもの自発活動をこそ保育の中心とせよとする考え方が強力に展開され、それに伴つて狭義の遊戯観が徐々に姿を消しているのが認められる。

絵本に関する一考察

隆崇幼稚園 寺田 豊子

私どもの園では毎月いろいろな絵本を幼稚園から渡しているが、ここ数年希望するものが減少する傾向がみえてきた。また、とつてもこのも家庭であまり関心を示さないという声をきく。他の園でも折々同ような声を耳にするのである。一方、最近では市販の絵本も大分よくなり、それらの間で園児たちがどんな関心を示すか、絵本に対する幼児の興味の傾向を調べ、私ども保育者はいかなる態度をとるべきか、保育の一資料にしたかつた。

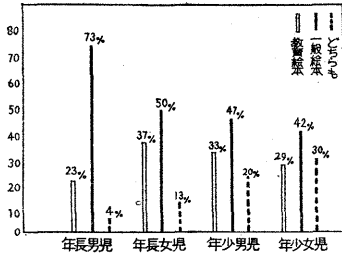
調査対象幼児は、近隣の幼稚園七園に依頼、三十一年度園児について調査紙をくばり、母親に記入を求めた。

回答数二三一。内、年長男児八一名、年長女児八七名、年少男児

三〇名、年少女児三三名である。(この場合、月刊絵雑誌も絵本とみなした。) (紙数の都合上、調査表略)

一、回答者全部が幼稚園から何かの絵本を買っている。
 二、それ以外に家庭でもよく絵本を買っている。(九三%) その中で月毎二四%、随時三六%、たまに二三%。幼稚園から買う絵本の他は何も買いませんと答えたものはわずか七%に過ぎなかった。
 三、母親の関心は比較的消極的のように思われる。説明をよくする三七%、きかれればする五九%、あまりしない。四%大体、子どもにきかれていろいろ細かく説明するものと思われる。

表 I



しずつふえている。総じて年長では、一般絵本、保育絵本、どちらもよいので大きく開いているが、年少では好みの差があまりなく、どちらも適当に好きだといえる。

五、本の内容についての傾向は、いづれもものがたりが上位を占め、他の項目をぐんとはなしている。いかに幼児がお話、絵物語、紙芝居などが好きであるかわかる。(表II) 次いで観察を主

四、一般絵本(市販の絵本)と保育絵本(幼稚園から買う絵本)をどの程度好むかの傾向は表Iのごとく、年長・年少男女とも、約半数以上、どのグループも保育絵本より一般絵本を好んでいる。ことに年長男児の場合は一般絵本を好む傾向が絶対強い。保育絵本のみを好むとするものはどのグループも約三割内外、どちらも好きというのは年長男女、年少男女の順で少

り一般絵本を好んでいる。ことに年長男児の場合は一般絵本を好む傾向が絶対強い。保育絵本のみを好むとするものはどのグループも約三割内外、どちらも好きというのは年長男女、年少男女の順で少

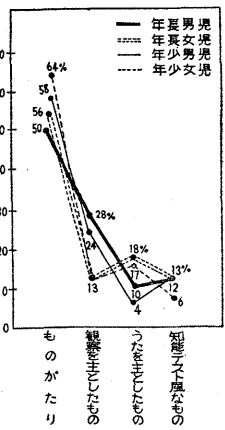
り一般絵本を好んでいる。ことに年長男児の場合は一般絵本を好む傾向が絶対強い。保育絵本のみを好むとするものはどのグループも約三割内外、どちらも好きというのは年長男女、年少男女の順で少

り一般絵本を好んでいる。ことに年長男児の場合は一般絵本を好む傾向が絶対強い。保育絵本のみを好むとするものはどのグループも約三割内外、どちらも好きというのは年長男女、年少男女の順で少

り一般絵本を好んでいる。ことに年長男児の場合は一般絵本を好む傾向が絶対強い。保育絵本のみを好むとするものはどのグループも約三割内外、どちらも好きというのは年長男女、年少男女の順で少

り一般絵本を好んでいる。ことに年長男児の場合は一般絵本を好む傾向が絶対強い。保育絵本のみを好むとするものはどのグループも約三割内外、どちらも好きというのは年長男女、年少男女の順で少

表 II



出てくるようである。知能テスト風なものは各年齢とも値が低く、絵本のもつ性格とテストという別の目的のあるものとのずれからあまり好まれなかったのではないかと思う。

六、今度は母親自身の回答では、最近の絵本は大へんいいが二九%、まあいい方が五八%で絵本は大分よくなってきたと認められてよいと思う。

七、どんな点をよしとするかは、絵、色彩が大へんきれいというのが一番多く、内容が幼児にふさわしい、印刷、紙質がよいなどが次いでいる。反対にわるい点としては、内容的にまだ考うべき点ありとするもの、付録がよくないとするものなどである。

八、最後に絵本以外に家庭で好んでみる本をあげてみると、漫画類(新聞、雑誌などを含めて)が一番多く、ついで名作童話、兄妹たちの学習本、図鑑とう、父母の雑誌の口絵や写真など、絵本以外にも案外興味をもっているのは考えさせられる。

調査表の結果は以上のようなものであったが、幼児が物語絵本を多く好むという結果は当然であるとしても、保育絵本より一般絵本をより多く好むということは深く反省してみなければならぬと思

う。

同じく物語を好むといっても年長になるにしたがって男児は多く冒険的なものを好むし、女児は平和的なものを好む傾向が現れる。保育者である私どもは年令に応じ、とくに保育絵本は保育者が内容をよく研究理解した上で、最も適当な解説をして与え、保育にも充分活用するのでなければ、保育絵本は今後ますますかえりみられなくなるのではないか。またそうでないまでも一般絵本に興味を傾いて、保育絵本はつまらないものとなってしまふのではないか。私は懸念する。まことにささやかな研究であるが、日々幼児の保育を担当する方々に少しでも参考になれば幸せと思う。

Finger-painting の研究 (4)

——親の態度と子どもの描画活動との関係——

大阪市立大学 小西勝一郎
並河信子

T. G. Alper らは中流家庭の親は下流家庭の親にくらべて、子どもの訓練において、比較的要求水準が高く厳格であるために、子どもたちが要求不満を起しがちであろうという仮設の下に、子どもたちに、より多くの不安傾向のあることを発見している。しかし、この際の親の態度については排泄の訓練の始期と終期を一応の基準としたほか、とくに留意していない。親子関係の研究については最近では、親子の直接の心理的關係の解明が重視され、親の態度をいくつかのタイプに分類している。Alper らの対象とした二階層の親につ

いても種々な態度のタイプをもつ親が予想され、中流家庭の親のすべての態度が常に子どもに欲求不満を生ぜしめ、下流家庭の親が常にさうでないとは云いきれない。親の階層的区別より、態度別にすることが、事実を一層明らかにするものと考えられる。子どもに対する親の態度の測定は必ずしも容易ではないが、上述の見地からわれわれはこゝで、Fels Parent Behavior Scale および Roff らの研究を参考にし、親の態度の五因子をとりあげ、これらの態度と子どもの指絵における描画活動との関係を検討し、さらにクレオン画との比較によって、この関係における指絵の特性を明らかにせんとした。

(a) 親の態度については F. B. P. S. を参考にして、三〇項目よりなる scale を構成して、大阪市立日吉幼稚園児の家庭を訪問し、主として母親を対象に、子どものしつけの方針、態度などについて対談しながら、実験者が観察した結果を scale の各項目毎に評価した。その結果を Roff によって、見出された親の態度の七因子について整理し、各家庭毎に各因子についての T 得点を求め、これをもってそれぞれの子どもに対する親の態度得点とした。なお今回の実験では、七因子のうちとくに子どもへの関心、民主性、寛容性、示唆性、親子間の調和の五因子について指絵との関係を検討した。

b 指絵実験の施行については、被験児を一人ずつ実験室に入れ、実験者が灰色の指絵具を使用して、描画方法を示した後、描かせこれを観察記録した。使用色は赤黄橙緑青紫茶および黒の八色で、その配列は被験者ごとに無意に変更した。指絵具との contact を最大にするため、今回からはスプーンを用意せず直接指でとらせた。その他の描画方法は大体前報告に準ずる。幼児一人につき最初自由画を一枚かかせ、一週間後、指定題すなわち「あなたの家の人をだれ